

生徒の学びを高め、生活する力を育てる技術・家庭科の授業

- 情報の収集・整理・発信を通して -

明戸中学校（実践者・報告者） 持田 栄

1 題材名「自分の製作品をプレゼンテーションソフトを使って紹介しよう！」
 （技術分野：『情報とコンピュータ』）

2 題材の目標
 ソフトウェアの基本操作について理解するとともに、デジタルカメラやスキャナ等の情報機器の積極的な活用を通して、収集した情報を主体的に判断し、処理・加工を施し、発信できるようにする。また、課題解決学習に取り組むことで、自らの生活を創意工夫していく能力を養うとともに、「情報モラル」についての理解を深め、情報を有効活用する態度をはぐくむ。

3 指導計画（15時間扱い）

ソフトウェアの機能.....	1時間	レポート発表会（本時：1/2）
ソフトウェアの操作.....	2時間	
プレゼンテーションの作成.....	9時間	
作品発表会.....	2時間	
情報モラルのある快適な生活...	1時間	

レポート発表会，まとめ

4 情報機器活用の意図・情報教育の視点
 情報教育の目標である「情報活用能力（情報活用の実践力，情報の科学的な理解，情報社会に参画する態度）」を生徒に育成するためには，課題や目的に応じて情報手段を適切に活用し，必要な情報を主体的に収集・判断し，目的に応じて処理，表現，創造することができるようにしなければならない。

また，情報機器の基本的な仕組みやメディアの特性を理解し，目的に応じて情報機器やメディアを活用できるようにすることも重要である。

情報社会の特質や情報化の進展がもたらす社会や人間に対する影響に関する知識を身につけ「情報モラル」の必要性を理解するとともに，個人情報や著作権を保護する態度，情報の信頼性と責任について理解を深めさせる。



5 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・コンピュータを操作し，プレゼンテーションソフトを利用して自分の製作品について発表することができる。
- ・「情報モラル」の必要性について，理解を深めることができる。

(2) 展開

学習内容	時間 (分)	生徒の活動	教師の活動	教・資料
		生徒の動き・おもい	評価，働きかけ	
前時の復習	5	・前時の学習内容を振り返り，本時学習内容を理解する。	・簡単に触れる程度にとどめ，深入りしない。	学習ノ
本時の学習目標の決定		・本時の学習目標を設定し，学習課題を設定する。	・本時の取り組みに具体性を持たせ，意欲を促す。	
学習課題の把握	40	自分の製作品をみんなに紹介しよう！		
作業の開始		・学習課題を理解し，本時の取り組みを開始する。	・机間指導を行いながら，各自の目標を把握する。	

<p>(発表会に向けて プレ発表会の実施)</p>	<p>(10)</p>	<p>・発表会に向けて，相互に練習する。</p> 	<p>・発表にあたり，条件を補助カードで提示し，目的を明確にさせる。 発表の態度，姿勢 声の大きさ 内容（製作理由，使用目的，工夫点など） 機能と その使用目的及び効果</p> <p>観察 意欲的に活動しているか。</p>	<p>補カド</p>
<p>(情報交換タイム)</p>	<p>(5)</p>	<p>・練習の結果をもとに，互いに気づいた点を助言し合う。</p>	<p>・よい点を見つけ，否定的にならないように注意を促す。</p>	
<p>(プレゼン発表会)</p>	<p>(25)</p>	<p>・画像をプロジェクターで出力し，プレゼンテーションソフト（パワーポイント）を活用し，発表する。</p>  <p>・発表を聞きながら，評価シートにコメントを記入する。</p>	<p>・雑誌等の写真を複写する場合，肖像権や著作権に触れることを理解させる。</p> <p>観察 コンピュータを自分で操作して，発表できているか。</p> <p>・発表者以外の生徒は，評価シートにコメントを記入させる。</p> <p>評価シート 著作権について理解を深められたか。</p>	<p>評シ十</p>
<p>作業の終了</p>		<p>・本時の取組を終了する。</p>		
<p>本時のまとめ</p>	<p>5</p>	<p>・本時の学習内容を振り返り，今日のまとめをする。</p>	<p>・評価カードをもとに，本時の活動を振り返り，自己を見つめさせる。</p>	<p>評シ十</p>
<p>次時の 学習内容の確認</p>		<p>・次時の学習内容を確認する。</p>	<p>・次時の活動に向けた意欲づけを図りたい。</p>	

6 成果と課題

コンピュータをはじめ，デジタルカメラやイメージスキャナ等に代表される情報機器の活用に生徒は，大変意欲的に取り組んでいる。応用ソフトウェア（プレゼンテーションソフトウェア等）の活用にも意欲的で，友だちと意見を交わしたり，情報交換を図ったりしながら，学習活動に取り組んでいる。今回，ほとんどの生徒が，プレゼンテーションソフトを利用して作品を紹介することができた。また，生徒の中には，今後の学校生活で積極的にコンピュータを活用していきたいと意欲を燃やしている生徒がいることを忘れてはならない。今後は，生徒の興味・関心，意欲を育てていくとともに，ネチケットや「情報モラル」等についても，適宜指導を加え，生徒の情報活用能力を高めていきたい。